

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土呂中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	教科の特性もあり、少し差があったものの、全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、まだまだ個人差があることから個別に支援が必要であると考える。さらに個別に集めたデータをどの教科でも活かせる対応を考えていきたい。また次年度は、特に2年数学で生徒同士が自らの考えを基に話し合う学びを重点的に取り組み、より知識・技能の向上を図りたい。
思考・判断・表現	学級の生徒とて話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。来年度は、活動の中で、より教え合いの時間を位置づけたり、協働的な学びを通して考えたり、表現したりする。そして主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善に取り組み、資質の向上を図っていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>生徒自身が学んだ学習について振り返り、今後の活動につなげようとする力の育成が必要と考える。 <指導上の課題>生徒が自らの学びを振り返る時間を確保ができていないことがある。	⇒ 生徒が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【R6年度全国学力・学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が70%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題>学習に対して、より深く学ぼうとする力の育成が必要と考える。 <指導上の課題>生徒主体の学びとなるような時間の確保ができていないことがある。	⇒ 活動の中で、教え合いの時間を位置づけたり、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようになる。【R6年度全国学力・学習状況調査「学級の生徒とて話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	R6年度全国学力・学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は目標値に近い値だった。今後は生徒が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かしていく。
思考・判断・表現	B	R6年度全国学力・学習状況調査「学級の生徒とて話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が目標に近い値だった。さらに活動の中で、教え合いの時間を位置づけたり、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「我が国の言語文化に関する事項」において、特に「行書の特徴を理解しているかどうか」の問題の無解答率が県や全国と比べて高かった。問題の意図の理解が不十分であると考えられる。 R6年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答の割合は94%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	数学の「関数」の領域において、説明する問題における無解答率が高く、目的に応じて事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動が不足していると考えられる。 「学級の友達とて話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は95%で、とても高い数値なので、今後も継続していく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	どの教科でも、概ねできていた内容では正答率がある程度満足するものもあった。つながりのある系統性の内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を必要と感じた。また、知識の根本的な理解を大切に、生徒が知識・技能を習得しているよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	様々な問題で、自分の考えをもたせ、言葉で説明する学習の指導を積み重ねた成果が一部出たと考える。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動や、異なる考え方をもち人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	自己の振り返りができる時間を設定しているが、教科によって意思統一が図れていなかったため、学校全体で共有し、取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科ごとに、活動の中で、教え合いの時間を位置づけたり、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)